

「土を耕し、心を耕す」

7月の西日本豪雨の災害が、まだ記憶に残る日々が続きます。去年の九州北部豪雨の傷跡も癒えぬ時期に襲った、災害のすさまじさに、改めて自然の脅威を感じます。犠牲になられた人のご冥福を祈るとともに、一刻も早い災害からの復旧を願っています。

今回の災害で、土砂が崩れたり堤防が決壊したりして、多くの家屋や田畑が土砂まみれになり、住居をなくし、生活の基盤となる水田や山間地の果樹園などに大きな被害がもたらされました。改めて、大地の有り難さを痛感します。

花々を育てたり、野菜やコメなどを育てたりするにも土が必要で、毎年、花を育てるために土を

tomoniki

耕して、肥料などを施しています。野菜やコメも同じように土を耕し、水や肥料を施して、収穫に向けて日々の努力を行っています。土を耕すことは、土の中に空気(酸素)を送り、根が呼吸できるようにしてやることや水を吸収しやすくすることで、栄養分を取り込みやすくすることが目的です。私たちの心も、耕すことをしないと固くなり、意固地になってしまいます。他人の言うことに耳を傾けることで、新たな発見をしたり、予断や偏見に気づいたり、正しい知識を吸収していくこと、人間としての魅力も増すのではないのでしょうか。

社会教育指導員 木村 博重

市交際費の支出状況

平成30年7月分

支出種別	区分	件数	金額(円)
弔 慰	今月分 累 計	2 8	8,000 53,000
見 舞 い	今月分 累 計	0 0	0 0
御 祝	今月分 累 計	8 18	87,200 129,400
賛 助	今月分 累 計	0 3	0 16,452
激励金	今月分 累 計	0 0	0 0
接 遇	今月分 累 計	2 5	9,220 63,630
会 費	今月分 累 計	5 19	16,000 67,000
その 他	今月分 累 計	0 2	0 7,200
合 計	今月分 累 計	17 55	120,420 336,682

◎くわしくは市のホームページに掲載しています。

問い合わせ

総務課 秘書係
☎75-2115

Message for citizen



市長コラム



市長 横尾 俊彦

第100回記念大会となった全国高等学校野球選手権大会。強力打線で、優勝候補の大阪桐蔭高校のエースは、多久市出身の柿木蓮選手。去年の雪辱と春夏連覇という偉業達成への目標も重なり、気合い充分でした。決勝戦の相手は秋田県立金足農業高校。投打に活躍する吉田選手と、準決勝でのスクイズ逆転勝利などいわゆる「雑草軍団」で全国制覇を目指しました。

決勝戦は、まさに全国注目の一戦になりました。

金足農業高校は初の東北勢優勝という悲願を担い、かつて県立佐賀北高校優勝のような熱気も高まりました。校歌熱唱の姿も印象的でした。東北の雪の中で長靴を履いた練習など、必死に頑張ってきた躍進校です。

大阪桐蔭は、春夏連覇へのプレッシャーの中、投打に進進。そのパワーはどこにも負けない激しい練習が生み出したもの。全国の精鋭が集うこのチームでエースナンバーを背負う柿木

甲子園優勝 柿木選手の活躍光る

選手は並々ならぬ努力を重ねたはず。結果は13対2で大阪桐蔭優勝。完投した柿木選手も、前年の苦い惜敗があったから今があるとの自覚で臨んだのでした。まさに苦難は人を鍛え、チームを強化しました。柿木選手は中学時代から硬式野球に飛び込み、速球投手として知られました。高校進学前の頃、柿木君に会いました。まっすぐに、ひたむきに、野球を目指す。澄んだ瞳が印象的でした。「内野手、捕手、外野手を経て投手へ。身体のバランスがとれ、全体的に成長できているはず。これから伸びるよ。頑張って」と激励したことがなつかしい。8月23日、多久市へ報告に帰省。甲子園優勝投手の顔は、あのとき語らいあった笑顔と変わらず、少年が青年へ向かう雄姿になっています。これからが楽しみです。ケガせず、心身ともによく自己管理し、大いに成長し、飛翔してほしいものです。